

## 平成 28 年度 新入職員歓迎式 理事長訓示

平成 28 年 4 月 1 日

皆さん、おはようございます。理事長の児玉です。

本日、皆さんのような夢と希望に満ちた前途有望な方々を、原子力機構の新しい仲間としてお迎えすることができたことは、私たちにとって大きな喜びです。役職員一同、お祝いを申し上げますと同時に、心より皆さんを歓迎いたします。新入職員歓迎式を始めるにあたり、皆さんへの期待と、職員として心に銘じていただきたいことを申し上げます。

今日、皆さんは、それぞれに喜びと不安の入り混じった気持ちで、ここにおられることと推察しますが、皆さんが配属される職場においては、計り知れない可能性を秘めた新戦力の到着を、大きな期待とともに、首を長くして待っています。

組織が継続して発展するためには、常に新しい人材の投入による活性化が求められます。特に、原子力機構のような知の創造、科学技術の探求を必須とする研究開発機関においては、皆さんのような若い力の絶えざる注入が欠かせません。

原子力機構は、我が国唯一の総合的原子力研究開発機関であります。いずれのプロジェクトも重要であり、皆さんにとって非常にやりがいのあるテーマ・業務が数多くあるかと思えます。皆さんの新しい発想、エネルギーにより、これらが飛躍的に進むことを期待しています。

さて、原子力機構は、独立行政法人の中でも研究開発に特化した、「国立研究開発法人」に区分されています。この「国立研究開発法人」の第一目的は、「研究開発成果の最大化」であり、一定の自主性が認められる代わりに、適切な目標設定及び評価を通して、「適正、

効果的かつ効率的な業務運営の確保」、「課題解決などのアウトカムの創出」、「国民に対する説明責任」などが求められます。

このような目的に沿って、私たちは研究開発成果を創出することはもちろんのこと、国際競争力を強化しながら、種々の政策的課題を解決し、日本全体の科学技術の水準の向上に貢献しなければなりません。

その課題解決の大きなものの一つを挙げますと、東日本大震災時に起きました東京電力福島第一原子力発電所の事故への取り組みがあります。

すなわち、この事故で大きな影響を受けた環境の回復と、原子炉施設の廃止措置は国家的課題となっています。原子力機構はその責務として、科学的及び技術的専門性を最大限活用して、これらの課題解決に幅広く取り組んできました。

5年を経た今なお不便な生活を余儀なくされている多くの方々がおられる現実を受け止め、引き続き、これら復興に向けた活動を最優先に、組織の総力を挙げて取り組んでいかねばなりません。

このような課題解決に向かっていく上で、原子力機構の一員となる皆さんに、ぜひ心に銘じていただきたいことを2つ申し上げたいと思います。

まず、第一に、社会人として、原子力のプロとして、自覚を持ち、安全確保を大前提とし、常に未知の世界にチャレンジしてもらいたいということです。

原子力の研究開発は、必ずしも全て順風満帆ではありませんが、皆さんの諸先輩方は、様々な困難に立ち向かい、その問題を一つひとつ解決しながら、確固たる目標に向かって進んできました。皆さんも、これから新たなる分野に果敢に挑戦し、困難にも勇気を持って立ち向かっていただきたいと思います。

第二に、原子力機構の理念を心に刻んで業務に取り組んでいただ

きたいということです。原子力機構は「原子力の未来を切り拓き、人類社会の福祉に貢献する」ことを自らのミッションとしています。これは、我々が公的研究開発機関として、エネルギーの安定確保並びに地球環境問題解決への貢献、そして新たな科学技術や産業の創出を目指した研究開発を行い、その成果を社会へ普及することを通じて、人類社会の福祉に貢献することに存在意義があるということを示したものです。

そして、その使命を果たすため、全職員が共有すべき信条として、「高い志 豊かな発想 強い意志」という3つのスローガンを掲げています。皆さん一人ひとりが、夢や希望、やる気を持って今日の日を迎えたことと思います。皆さんがこの高い志、豊かな発想、強い意志を持って、事に臨めば、必ずやその夢や希望は達成できるものと確信しています。

最後になりますが、皆さんは、原子力機構の新入職員として、内外から大きな期待と注目を浴びています。このことを認識し、常に良識ある行動に心掛けて下さい。その上で、健康に十分注意を払いながら、皆さんの持てる力を存分に発揮し、職場にフレッシュな風を吹き込んで下さい。皆さんのこれからの活躍を心から祈念して、私からの言葉とさせていただきます。

以 上